

仕事終わり、学校終わりの短編演劇 20/1440min. —2021—

椅子語り

登場人物

五月田 (さつきだ)

老人

豆はな

つやべに

おしろい

置屋の女将さん (声のみ可)

※五月田、老人は他の役を兼ねることもできる

Ep02 化粧台の椅子の話

前回に引き続き現代の福島市。文化通りの途中、細い路地を曲がった所に
ある椅子語り屋「吹きしま椅子店」が舞台。

二十代後半の女性、五月田 (さつきだ) は、日帰りの出張で故郷の福島市
に二ヶ月に一回ほど帰ってきている。彼女は五月に幼い頃に実家で飼って
いた黒猫「つくね」に似た猫の姿を追い、この店を訪れていた。この店は
「椅子語り屋」。椅子に染み付いた「物語」を売る不思議な店である。

幕があがると、老人が、椅子を揺らしながら本を読んでいる。静かなピア
ノの音。

五月田入ってくる。

五月田 ……こんばんは
老人 いらっしやい。……ああ……あー……あんたか
五月田 五月田です
老人 五月田。また猫を探しに来たのか? ……なんだったか、ねぎま
五月田 つくねです
老人 あー、つくね、つくね
五月田 この椅子です
老人 なんだ覚えてるのか。……つくねの椅子の物語、読んでくのかい?
五月田 ……いえ

老人　まあ、ゆっくり見ていきなさい。好きな椅子があったら読んで行きなさい
五月田　「吹き鳥椅子店」。看板かかってたんですね
老人　ああ
五月田　「椅子語り屋」ってググっても出てこないし。文化通り、マップ見てもそれらしいところないし・・・見つからないかなって思ったんですけど
老人　あんたが来たいと思ったから来たんだ
五月田　なにそれ・・・この間のお代、払いそびれちゃったなって。売り物な
んでしょ、「椅子語り」。どんな仕組みか知らないけど、お店の椅子の話、読ま
せてもらったのは確かだし
老人　そうだったな
五月田　ペイペイ使えますか？
老人　は？
五月田　言ってみただけです。カードは？
老人　カード？
五月田　え、カードも使えないんですか？
老人　使えるよ！ペイペイも
五月田　使えるんですか。じゃあ、ペイペイで。いくらでした？
老人　嘘だ
五月田　なんで嘘つくんですか！
老人　そうだ、良い椅子が入ったんだ
五月田　ちよっとお代は
老人　いちいち騒ぐな
五月田　お金払おうって言うてるんです！！
老人　特別に読ませてやる。座ってみろ
五月田　イヤです
老人　良いから
五月田　なにが良いんですか！有料でしょう！！
老人　あ？
五月田　だから有料でしょう！！
老人　めんどくさいな、お前・・・お前・・・五月田
五月田　はい
老人　良いか。お前がこの店に来たいと思ったから、お前はいまここにいるんだ。そ
うだろう
五月田　ええ、前回払いそびれたお金を払いたって思ったから
老人　違う
老人　違います！
五月田　お代のこと口実だ
老人　違います

老人 良い。金は良い。なら、初回無料きんぺん
五月田 は？

老人 前回は初回無料きんぺんだ
五月田 キャンペーンね。・・・別にお店がそれでいいなら、それで良いです。

老人 ああ、構わないよ。そら、座ってみろ

五月田 いや、そういうことなら用事はもう無いんで。帰ります

老人 少し時間あるんだろう。新幹線まで。この前と同じ時間だ

五月田 それは

老人 そのつもりで来たんだ

五月田 ・・・・ああ、もう、わかりました。お金払わないのも癪だし。・・・二回目は
有料ですよ

老人

座ってみろ、そうだ・・・。そうして、目を閉じて、音を聞け。いいか・・・
どうだ・・・時計の音から・・・すうと、意識を遠くに・・・風の音・・・雨
の音・・・人が何かを話す声・・・音楽が聞こえてくる・・・

ゆっくりと照明が落ちていき

老人

さあ、椅子語りの始まりだ。

明治三十五年、七月。午後三時頃。北裡（きたうら）の置屋（おきや）の
二階。遠くから寄せ太鼓の音が聞こえてくる。矢剣町（やつるぎちょう）
一本杉の遊郭（ゆうかく）からの音である。芸姑（げいこ）の「豆はな」
の化粧前のひととき。椅子に座って外を眺めている。隣の机にはこれから
始める化粧に使う道具一式。

豆はな

♪ふるさと求めて 花一匆（はないちもんめ）

買って 嬉しい 花一匆

負けて 悔しい 花一匆

あの子がほしい

あの子じゃわからん

相談しましょ

そうしましょ♪

机に並べられた化粧道具のうち、口紅のつやべにが話しかける

つやべに

またそんなしみったれた歌、歌って

豆はな

好きなの

つやべに

まるであんたらのこと

豆はな 自分の歌好きになるのっておかしい？
つやべに おかしいね。まけて買われて、
豆はな ふるさと求めてから始まるからいいの
つやべに ふるさと求めて、ね
豆はな (遠くの太鼓の音を聞き)三時の太鼓の音がなるとね、福島の若い衆はソワソワ
つやべに ワしだすんだって。みんな八剣(やつるぎ)の一本杉に行きたくなるの
つやべに 笑える
豆はな あっち行けば良かったかな。北裡(きたうら)に残るんじゃないよ
つやべに 水揚(みずあ)げもまだなのに
豆はな もうすぐ
つやべに それに、あんたが決められることじゃないだろ
つやべに そうだけど・・・あっちの通りは桜が並んで綺麗なんだって
つやべに 田舎だって言っただけか？狐が寂しく鳴いてるって
豆はな 人が集えば変わるのよ
つやべに 桜だってまだ若木だろ。去年出来たばかりなんだから
豆はな そう聞いたんだもの
つやべに 酒に酔った奴らに聞いた話なんてアテにならないよ
豆はな これも聞いた話・・・実はね、この置屋、やめようと思えばやめられるのよ
つやべに 思うのは自由だろ。だけど逃げたら、あんたの家がどうなるか
豆はな 家のことなんて知らない
つやべに じゃあ、やめちまいなよ
豆はな ・・・やめられないの。行くアテないから。アテの役者のあの人もきつと一本
つやべに 杉に行っちゃおうの
豆はな ハナから期待しちゃいけないに
つやべに 彼ね、今度、お花をくれると言ったわ。金はないから、摘んでくるって。あん
つやべに たに似合いそうなのとおきの花を見つけたんだって言ってた
つやべに 誰にだって言ってるのよ
豆はな 知ってる
つやべに 知ってるくせに外ばかり見て
豆はな 別にあの人を待ってるわけじゃない。今、来るわけないもの。だって、きつと
つやべに いま、新開座(しんかいざ)の舞台上に立ってるわ。役者だもの。お姉さん
つやべに がたは、昨日の旦那さんに連れられて見てるの。良いなあ
つやべに ・・・
豆はな ♪ふるさと求めて 花一匁
つやべに 買って 嬉しい 花一匁
つやべに 負けて 悔しい 花一匁♪
つやべに ・・・でも、そうね。逃げましょっか
つやべに ふるさとへ？

豆はな
つやべに
米沢はイヤ。売った父親のところに行ったって
それじゃ、新開座まで？

豆はな
ほんとにちょっとだけね

つやべに
今行きたいのはそこでしょ

豆はな
もっと遠くに！この置屋から抜け出して

つやべに
そして、どうやって生きるんだい

豆はな
さあ

つやべに
さあ

豆はな
つやべにも一緒に行く？

つやべに
行っても役に立たないよ

豆はな
話し相手になってくれるだけで良い

つやべに
あたしと話してられるのは置屋だからだぞ。ここから離れたら、あたしが嫌に
なる

あなたを紅色好きよ。一匁（いちもんめ）の艶紅（つやべに）。

豆はな
つやべに
花一匁。あんたと同じ値打ち？

豆はな
そう

つやべに
あたしの色は白粉（おしろい）の上のにせるから映えて見えるだけ

豆はな
あ、白粉

つやべに
白粉？

豆はな
新しい白粉もらわなきゃ

つやべに
ああ、昨日でさよならだったから

豆はな
お母さん、

お母さん、

女将やってきて

女将やってきて

はいはい、豆はな。白粉だろう

女将
豆はな
ありがとうございます

女将
もう三時過ぎてるんだ。化粧しな

豆はな
はい

はい

はい

女将はける。女将が持ってきた白粉も話し出す

はじめまして

豆はな
おしろい

おしろい
はじめまして

豆はな
おしろい

おしろい
おしろい

つやべに
おしろい

豆はな
おしろい

おしろい
おしろい

おしろい
おしろい

おしろい
おしろい

おしろい
おしろい

おしろい
おしろい

おしろい
おしろい

つやべに
おしろい
北裡？

奥州街道・北の裏、裏は裏でもウラの字が違う。着物の羽織（はおり）のウラの「裡」の字、当てて「北裡」この町は江戸の頃より旅籠（はたご）立ち並び、飯盛女（めしもりおんな）の声響く。文明開化の明治にも、お蚕さまのお陰さま、洒落た裡地の羽織の旦那、羽振りよく遊ぶ町

つやべに
まあ、去年、山田の県知事さんが一本杉遊郭を作っちゃったから、男どもはみんなそつちにいつちまったけどね

豆はな
あっちは遊女。こっちは舞妓
こんな田舎にそんな違いがあるもんか

おしろい
おしろい
土産には菓子屋に花屋。芝居小屋の新開座だつてある。北裡にないお店は無いの！

つやべに
おしろい
おしろい
おしろい
へっほこは余計

私、舞妓さんの白粉になるんですね
ああ、その予定だったが残念だ、おしろい。あんたは使われること無く、さようなら

おしろい
そうなの？
この子はここから逃げ出すんだよ、今日

つやべに
つやべに
もうやめたのかい？

・・・そうね、おしろい。はじめましてさようなら。私は芸姑をやめます
やめてどうするの？

豆はな
つやべに
おしろい
さあ
さあ
さあ

三人で笑い合う。そこに女将来て

女将
豆はな！
はい

女将
豆はな
あんたを訪ねて役者が来たんだがね
ほんとに！
花を渡したいなんて

豆はな
女将
いま行きます
ああ、もう追い返したよ

豆はな

女将 どうして

どうしてもなにもあるかい。団菊左(だんきくさ)ならまだしも、無名の役者があなたを身請(みう)けしてくれなくても思ってるのかい!

豆はな 別にそんなこと・・・。お花持ってきてくれたんでしょ

女将 ああ、その辺に咲いているような花だった

豆はな お母さん、そのお花は

女将 持って帰らせたよ

豆はな お母さん

女将 あんな下手くそな役者なんかにつきまとわれてどうすんだ!客がつかなくなるよ

・

豆はな

女将 良いかい、あなたのためにならないんだ。解るね。そら、準備しな

豆はな はい

女将はける

豆はな 余計なお世話!自分のためでしょ!

つやべに そうね

豆はな それに下手くそかなんてわからないじゃない。女将さん見たことあるのかしら。きつと上手! もういい!

おしろい ねえ、やめちゃうの?

豆はな そう!あの人と一緒にどこか行く

つやべに 女将さんに追い返されて、帰るような男と?

寄せ太鼓の音が大きく聞こえる

豆はな 矢剣町からここまでどれくらいあるのかしら?今日はやけに大きく聞こえる。きつと風に乗って届くのね。・・・はやく冬にならないかしら。町中が白粉を塗って真っ白になる。そしたらきつと音が隠れて静かになる。

つやべに 寒いのはイヤって言うくせに

豆はな それじゃ南に行こうかしら

つやべに そうしたら雪はふらない

豆はな ままならないな

つやべに ままならないね

豆はな なにもかにも。おしろいが来たせいかも

おしろい 私のせい?

豆はな そう

おしろい ひどい。せっかく来たのに

豆はな

おしろい

豆はな

・・・つやべに、おしろい。心の中の物思いは誰にも止められないの。目を閉じればすぐに出来る。あなたたちみたいな化粧道具と話しをしてるなんて、人に話したら笑われちゃうけど、思うことは許される

つやべに

思ったって、形にならなきゃ残らないでしょ

豆はな

そう・・・そうね

おしろい

でも。もしかすると残るのかもしれない。どこかの誰かが私の物思いを掬い取

つやべに

ってくれるかもしれない

豆はな

そんなことあるかしら

おしろい

・・・ないでしょうね

豆はな

でもそうだったらおもしろい

つやべに

この椅子に残そうかしら。名前でもこっそり彫って

おしろい

私たちの名前も彫ってよ

豆はな

うれしい！

(簪で椅子の裏側に名前を掘る)豆はな・・・つやべに・・・おしろい・・・

三人でクスクス笑う

豆はな

これを見つけた人はなにを思うかしらね。

おしろい

変なの

つやべに

変なの

豆はな

変なの

つやべに

何を思っしてほしいの？

豆はな

・・・逃げよっか

おしろい

どこから

豆はな

この窓から

つやべに

怪我しちゃうよ

豆はな

この町にはなんでもあるから

おしろい

近くに病院もあるね

豆はな

飛んで行くの

おしろい

飛んでいくのか

豆はな、窓から外を見る。そこには竹竿にぶら下がった花かご。受け取り、無言で手をふる

豆はな

・・・きれいな花筐(はながたみ)。物思い、物思い

♪ふるさと求めて 花一匁

買って 嬉しい 花一匁

負けて 悔しい 花一匁♪

女将がやってきて

女将 豆はな！何歌ってんだい、まだ化粧も済んでないじゃないか
豆はな はい！すぐに
女将 今日もお座敷入ってるんだからね。ちゃっちゃとしなよ！
豆はな はい

女将はける。豆はな、こっそりと椅子の裏の文字を指でなぞって

豆はな さ。おしろい、今日からよろしくね。

豆はな、化粧を始める。
現代に戻って

老人 おかえり

五月田 ・ ・ ・物思い？

老人 そうだ。豆はなという明治の芸姑がその椅子で何を思っていたか。そんな椅子語り

思いもこうして残っているんですね

ああ、椅子に染み付いた想い、記憶・ ・ ・

本当に変な店

老人 あんたが探してた「つくねの椅子」に刻まれているのは記憶か、思いか

・ ・ ・なにを思っていたか、解るんですね

猫がかい？

五月田 いいえ。 ・ ・ ・その椅子、つくねの椅子って言ったけど。本当はおばあちゃん
の椅子。おばあちゃんの膝の上につくねがいつもいたから

知りたいなら読んでいくといい

来たと思って思ったら来れるんでしょ

ああ

なら、いまは良いです。 ・ ・ ・まだ読みたくない

そうか

お爺さんは知ってるんですか。その椅子の物語

ああ

そう。 ・ ・ ・私のせい？

怖いのか？見るのが

・ ・ ・

また来なさい

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田

老人

五月田 いや、お金

老人 もう貰っているから良いんだ

五月田 へ？

老人 その椅子な、あんたが来たからここに現れたんだ。こいつを買い取った分だ

五月田 ・・・そうですか

老人 ああ

五月田 それじゃあ

老人 また来なさい

五月田はける

老人 どれ、店じまいにするか。次はどの椅子語りにするかね

ゆっくりと暗転。エピソード3 県令室の椅子の話へ。劇終。